

〔研究紹介〕

# 映像と雪の実験による 「月山志津温泉・雪旅籠」支援：N-PROJECT

猿渡 学<sup>1)</sup>, 今西 肇<sup>2)</sup>, 金澤 泉<sup>2)</sup>

## Community Support Projects “N-PROJECT” “Shizu Gassan hot spring snow Hatago of Light” by the images and experiments on snow

Manabu SARUWATARI<sup>1)</sup>, Hajime IMANISHI<sup>2)</sup>, Izumi KANAZAWA<sup>2)</sup>

### Abstract

The purpose of this project is to propose to how to publicize the charm of Yamagata Prefecture Nishimurayama Nishikawa-machi. "Shizu Gassan hot spring snow Hatago of Light" is the most popular festival in this town. We have participated in this festival.

After 3.11 the earthquake, we have researched Tohoku, especially northeast coastal disaster areas. Although there are many difference between these areas, we can solve a common problem.

### 1 はじめに

山形県西村山郡西川町は、人口5,757人（男性：2,762人 女性：2,995人 総世帯数：1,911世帯）<sup>1)</sup>、総面積393.23キロ平方メートル、山形県のほぼ中央、磐梯朝日国立公園の朝日連峰や月山と支脈に囲まれている。町の総面積の95%が山地であり平地は町を流れる寒河江川沿いとその支流沿いにわずかに広がっているのみである。かつては、庄内地方への街道街として、山岳信仰の拠点として、街道筋に集落が点在し、往来の多い賑わった街であった。



図1 表敬訪問の様子

人口流出と高齢化の問題は地方都市にある特有かつ典型的な問題であるが、上記のような地理的な問題もあり、大企業の誘致は望むべくもない。

この問題は、震災復興地の問題とも通底する点であり、これまでの震災支援を通しての知見を活かすことができるのではないかという試みから、西川町との地域連携プロジェクト

1) 経営コミュニケーション学科 Department of Management and Communication

2) 都市マネジメント学科 Department of Civil Engineering and Management

トをスタートさせた。まずは、これまでの震災関連の様々な経験を提示し、次に西川町で具体的に行った「月山志津温泉雪旅籠の灯り」の支援内容を紹介する。最後に今後の新たな提案と実現性を探ることで閉めたい。

\*

東日本大震災からの復興は、被災地の再生を行う過程の中で、東北地方の様々な文化や風土、芸能の再発見の機会となっている。それに伴い、被災地復興だけではなく、東北地方全体の価値の再確認がおこなわれ、その中から新しいムーブメントが起こりつつある。新たな街づくりが加速している地域もある一方で、震災前からの人口流出、商店街地域の空洞化などが、かえって震災により顕然化した地域も多い。この状況は、本プロジェクトの対象である西川町をとらえる際の参考となるのではないかと思う。プロジェクトを進めるにあたって参考としたものをここであげておきたい。



図2 はまぐり浜

「蛤里プロジェクト」<sup>2</sup>(宮城県石巻市桃浦字蛤浜)は、壊滅的な被害を受けた蛤浜を再生させるだけでなく、そこに人と自然との「共存」を目指しながら、もともと高齢化や過疎化などで集落を維持できてこなかった地域に新しい村を立ち上げるためのプロジェクトとして現在進行形である。「教育」、「六次産業」、「観光」からのアプローチの試みである。

手付かずとなっていた山林を整備することで「里山」を再生し、また害獣とされてきた鹿を活用した食品や皮革製品の開発、販売をおこなっている。それらを展示・販売する「はまぐり堂」というカフェをこのプロジェクトの基点とし、ゲストハウスなどの構想などが現在進められている。など、これまでになかった企画を実現させている。

しかし、蛤里プロジェクトのように被災地域での地域の魅力創造の試みを十分に活かさない地域も多いのが現実であり、この問題は被災地域に限定的なものではなく、地方の地域が抱える問題と同質のものにとらえることができる。

2011年3月11日の発災以降、宮城県気仙沼内湾地区商店街の復興に対して、都市マネジメント学・経営コミュニケーション学の両面から複眼的にプランニングをおこない、地域と共にある大学としての責務を担ってきた「K-PROJECT」に関わってきた今西・猿渡両研究室は、それまでの成果をもとに、山形県西川町の町おこしの支援を行った。先に述べた「蛤里プロジェクト」の例を参考にしながら、西川町が現在抱えている問題点を整理して、かつ同町を持つ魅力を発掘して、プロモーション素材を提供することがこのプロジェクトの目的である。

## 2 活動内容と学生の参画

猿渡研究室は、研究室で取り組むべきプロジェクトとして、都市マネジメント学科今西研究室とともに2015年9月に夏合宿を実施し現地調査を行ってきた。その中で、前項で述べた「教育」、「六次産業」、「観光」の観点から、被災地域が抱える問題と西川町の抱える問題との類似点を見出し、西川町へのアプローチとして以下の点を念頭に置くこととした。

1. 「観光」：旧街道の街として歴史的要素が多く、これらをクローズアップしたプロジェクトができないか？具体的には、宿坊を活用した新たな観光ルートの提案・体験型ツーリズムのプランの構築（修験者の歴史を体験するプランなど）
2. 「六次産業」：自然からの恵みを新しい商品として再開発はできないか？名産品は多いものの目新しさがあまり感じられなかったが、自然の恵みを現代風にアレンジするスイーツの開発や、水の豊かさをフューチャーした商品などを積極的に行っている。ただし、これらの商品をお土産として販売するにとどまっているのが現状である。若い世代の受け皿になる展開が望まれる。
3. 「教育」：自然を生かした林間学校などの実施ができるような施設整備や廃校を利用したワークショップを展開することが必要ではないか。

これらの視点の中から、今回は「観光」の面を中心に「集客」を目指す企画として、「雪旅籠の灯り」の記録収集ならびにプロモーション映像制作を行うことにした。これらの映像製作は、このイベントの撮影にとどまらず、西川町の四季のイベント記録映像を収集する活動の一環としてとらえている。西川町の観光は、豊かな自然をベースとすることが最も無理のない展開だと判断したためである。

「雪旅籠の灯り」は、東北の山岳信仰の霊場の一つである「月山」の修験者達が訪れた「志津」の宿坊を雪で再現するものである。雪をモチーフにした祭りは、横手市「かまくら」や札幌「さっぽろ雪まつり」など、東北・北海道の雪を象徴した祭りは数多くあるが、「雪旅籠の灯り」は、「さっぽろ雪まつり」のように別の場所から雪を輸送して雪像を作るというのではなく、豪雪地域の雪をそのまま活用する（天然雪）という趣旨が他との大きな違いである。

この点が評価され、「第13回全国ふるさとイベント大賞」での総務大臣表彰や「第2回地域づくりのやまがた景観賞」での県知事賞などを受賞している。

第11回となる今回は、2016年2月27日から28日、3月4日から3月6日に開催された。「雪旅籠」の設計・制作は、東北芸術工科大学、跡見学園女子大学、宮城大学、共立女子大学の建築デザイン関係の学科などの学生を中心におこなわれた。制作が2月22日から本格的に行われるのに合わせて、猿渡研究室はその制作過程の記録映像素材の収集を行った（2月25日まで）。開催期間中、本学都市マネジメント学科今西研究室はイベントの運営ならびに雪の結晶を見せるコーナー、雪の強度の実験などをおこなった。猿渡研究室は制作過程の記録収集



図3 制作風景



図4 スクリーンの制作風景

を目的としていたが、記録映像やイメージ映像を雪のスクリーンに上映できないかという主催者側の要望を受け、急遽3月4日から5日までの3日間限定で、制作したプロモーション映像を雪のスクリーンに上映するコーナーを担当することとなった。

上映するためのスクリーンは、雪の凹凸を活かして、立体的な映像にすることにした。また、上映場所が受付から10メートルほどの場所であったため、来場者はまずこのスクリーンの前を通ることになっていた。そのため、コンテンツ制作においては、主に制作過程を示すこととし、参加した学生たちに記録映像を撮影するように指示を出した。1週目の記録映像はそのまま編集機材（持参）によって編集を行い、主催者の確認を経て2週目の来場者向けのオリエンテーションの役目を果たす映像として上映することになった。

今年度の企画内容は、「西川町の魅力の映像化」ならびに「雪旅籠の灯り」のイベントの様子をUSTREAMによる番組配信することであった。しかしネット回線の確保や機材の防水・防滴対策が遅れたため、実現はできなかった。西川町の魅力を伝えるための映像制作については、関係者へのインタビューや来場者のコメント、西川町の“街おこし協力隊”のコメントを収集することで、単なる記録映像、プロモーション映像にとどまらない映像製作ができた。これらのインタビュー企画とその実現は、同行した猿渡研究室の学生とボランティアで参加した経営コミュニケーション学科の学生たちの共同作業によって生み出された、貴重な映像であると言える。中でも、西川町の“街おこし協力隊”のコメントは、今後の西川町の施策の参考にもなるコメントであった。

すなわち、彼ら協力隊は、地域の様々なイベントなどの主力としては期限付きで西川町の職員となり活動をしている。西川町に魅了されつつも、期限が切れるとそのまま町に残ることができないため、仙台市や山形市などの地域の中核都市で職を探さなければならないということである。

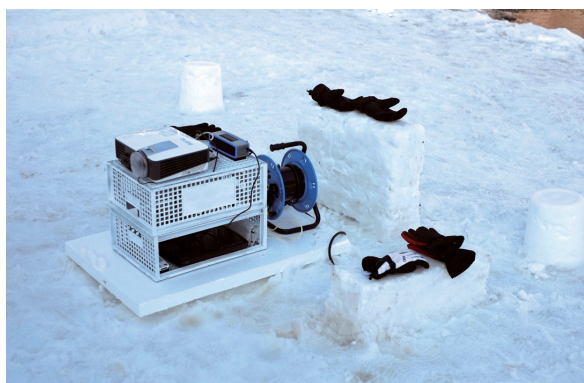


図5 機器のセッティング



図6 上映の様子



図7 立ち止まって見る来場者も多かった

これは“街おこし協力隊”だけの問題ではなく、町内の若年層の他地域への流出がとまらないという根本の問題であり、町に若年層が働くことのできる雇用を創出することが急務ではないかと思われる。今後の支援の展開の一つの側面となることだろう。

### 3 考察（今後の方向性）

西川町は山形県のほぼ中央に位置し、磐梯朝日国立公園の朝日連峰や月山とその連峰に囲まれた地域は、平野部こそ少なく山間部に集落が点在している。出羽三山参詣や参勤交代で使用された旧街道「六十里越街道」（庄内地方と内陸をつなぐ出羽の古道）を中心に、西山村，川土居村，本道寺村，大井沢村が合併した町が西川町である。

街道沿いの集落であったことから、人とモノの往来の多かった歴史を持つ。庄内地方と内陸の文化や風習が混在していることも特徴であり、それぞれの集落には独自の風習や言い伝えがある。このプロジェクトのアプローチとして「観光」という視点を考えた時、西川町に伝わる様々な芸能や風習・言い伝えなどを基にした映像作品を制作してプロモーションに使用することを提案の一つにしたいと考えている。

また、今回はできなかったが、USTREAMなどのインターネットを用いたプログラム（情報発信番組）により、祭り開催期間中の様子をリアルタイムで配信することを実現計画の一つとしていきたいと計画している。

---

<sup>1</sup> 平成28年10月1日現在：住民基本台帳（西川町ホームページより）

<http://www.town.nishikawa.yamagata.jp/index.html> 平成28年10月3日閲覧

<sup>2</sup> クラウドファンディングを用いて資金を集めている：JAPANGIVING サイト内

「被災した故郷を再生し、新しい浜のカタチを作る！」<http://japangiving.jp/charities/8734> (access 13 May 2016)